

# 2億円補償予算案可決

## 蒲郡市議会 艇庫移設手法には批判

蒲郡市のラグーナ蒲

郡地区をめぐる大学艇庫の移設問題で、市議会は三日、移設する六大学に総額二億円を補償する本年度一般会計補正予算案を可決した。ただ、市議からは市の手法に批判が相次いだ。

六大学は愛知大、愛知学院大、名古屋工業大、名古屋大、南山大、名城大。移転先となる共同艇庫の建設費などに、市が三億円を投じることもあり、当初、補償金の支払いを想定していなかった。

しかし、大学側との交渉の末、二億円をいったん支払い、今後の共同艇庫の賃料に上乘せする形で、うち一億五千万円は市に戻してもらった。

柴田安彦議員（無党派）は「大学側の言い分を聞いただけ。他の公共事業と比較すると公平性を欠く」と指摘。日恵野佳代議員（無党派）は「大学との合意前に新艇庫の建設に着手し、信頼を損なった」と語った。

こうした指摘に、井沢勝明副市長は「今回

は公共事業とは違う任意の交渉。理解を得られるよう進める必要があった」と答え

た。  
市は近日中に各大学と補償金などの正式契約を結ぶ。六大学は十月にも新艇庫へ移り、現在の艇庫が立つ市有地はラグーナテンボスへ譲渡される。

（木村尚公）